

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）
2	指定管理者	公益財団法人 仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年（2017）4月1日～令和4年（2022）3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 34,122人（前年度比 88.1%） 平成30年度 38,729人 平成29年度 40,698人 平成28年度 48,930人</p> <p>《事業》 富沢遺跡の保存・公開事業、旧石器時代の復元林の維持管理・公開事業、年4回の企画展を含む展示事業、普及啓発事業、調査研究事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p>（ ）は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 107,192千円 （103,499千円） その他市が負担した費用 37,748千円 （1,914千円） <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 6,031千円 （6,704千円） その他収入 191千円 （192千円）
6	利用者の声	<p>《実施状況》 通年で来館者に対してアンケート協力をお願いし、集計結果は「地底の森ミュージアム・縄文の森広場 年報2019」に掲載した。また、頂いたご意見の一部に対する回答を館内に掲示している。そのほか12月1日～22日の期間、来館者全員に用紙を配付し、展示や事業内容、職員の対応等についてのアンケートを行った。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、富沢遺跡の保存・公開と復元林の維持活用等について、職員が十分理解している。また、展示事業や体験・講座などの普及啓発事業、学校との連携、資料の保管・調査を通して、本市の歴史文化の保護・向上といった目的を達成している。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績・配置状況は適切であり、事業計画書の通り開館している。指定管理料についても適正に執行されている。個人情報の保護に対する体制や、事故防止のための体制が整えられており、対応マニュアルが作成されている。事故発生時および災害発生時の対応体制も確立されており、迅速に報告書も作成されている。毎朝の職員朝礼が行われており、連絡事項だけでなく、研修内容や事故発生時の対応などの周知が徹底されている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物や設備が適切に管理され、利用者にとって快適かつ安全に過ごせる環境が保持されており、仙台市環境行動計画に則った取組みが行われている。地下展示室の遺構保存については、専門家を加えた保存処理検討会の指導を受けながら、保存処理を施し適切に管理している。野外展示である植生についても、「氷河期の森」として2万年前の森の様子を復元した状態を維持するため、植生検討会の指導を受けながら、植栽の手入れや病害虫を駆除し、良好な環境を維持している。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや利用者への受付・案内業務は良好で、ホームページやフェイスブックなどのウェブサイトや運営、親しみやすいデザインのパフレットやチラシなど館独自の紙媒体の作成・配布、市政だよりなど幅広い広報手段を活用し、広い世代に情報を発信している。また館内に設置した利用者アンケートで寄せられた意見や苦情に対しては、職員で対応を協議した後、回答を館内に掲示するなど、サービスの質の向上への取り組みがみられる。また、時間外に職員とボランティアで定期的な研修を行い、調査報告発表など情報共有および解説内容の深度が図られている。	28/28

V	施設固有の基準	<p>協定書や仕様書等に基づき適切に施設を管理するとともに、事業計画書どおりに適切に事業を運営している。また、大学等の外部機関との連携による事業展開を行うとともに、学校・市民センター・地元商店街・地域住民と協力してイベントを行い、地域社会と良好な関係を維持している。</p> <p>なお以下の1) 富沢遺跡の保存及び公開、2) 普及啓発事業、3) 近隣との良好な関係の維持の3件について、加点評価する。</p> <p>1)「学校法人 東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター」との共同研究 地下土壌と連続している遺跡の、生きた遺構面をそのまま露出保存している施設の類例は多くないため、研究成果の報告および今後の研究継続は、当施設だけでなく全国の貴重な歴史的遺跡の保護と価値の向上につながっていくものである。今後の発展への期待も含め、実績を挙げたものとして評価する。</p> <p>2)①「親子でつくろう古代米」②「ミュージアムシアター 狩人登場」 ①当イベントは土地所有者、近隣住民、近隣学校との良好な関係の上になり立つ地域連携事業であり、水稻の生育状況が紐帯となり、季節をまたいで地域や館利用者に対して事業効果が及んでいる。親子共同での環境学習・歴史学習・生活学習の機会を提供できるまたとない事業であり、学習効果・満足度ともに高く、イベントに参加していない利用者等に対しても成果物である古代米や稲わらを通じた波及効果があることから、当事業を評価する。</p> <p>②演劇という手段によって、遺構に残された焚火や石器づくりといった人類活動の痕跡を来館者に対して実際的かつ印象的に示すことができる展示である。また、公演ごとに演者とスタッフで課題を探り、回数を重ねるごとに内容を充実させているため、新鮮で魅力的な展示が発展しながら継続できている点を評価したい。</p> <p>3) 地元商店街・施設等と積極的に連携・協働し、「地域の活性化」のための活動 ①ララガーデン長町(らら夏休み)「親子でつくろう 氷河期の森の松ぼっくりツリー！」②長町まちかど教室「企画展～展示品のウラ話～」③地域学習「地底の森にいこう」 地元の長町にある商業施設や商店街、教育団体に協力した事例である。どれも地域のまちづくり・ひとづくりに貢献し、地域に密着した取り組みとして評価する。</p>	17/14
---	---------	---	-------

三 評価総括

《指定管理者（仙台市市民文化事業団）による自己評価》	
<p>施設の管理運営に当たっては、所管課と協議しながら、協定書等に基づき適切に行った。施設の老朽化が進んでおり、安全安心に関わる消防防災設備の修繕、遺跡保存と見学環境の整備に不可欠な空調機器の修繕等を重点的に行った。安全で利用しやすく、かつ長寿命化を意識した管理を心掛けた。そのほか専門家の指導を受け、地下展示室の遺構保存処理、野外展示の維持管理に努めた。5月には4年連続となる韓国ヨンチョン旧石器祭への学芸員招聘、8月には東北芸術工科大学との共同研究成果について「東アジア文化遺産保存国際シンポジウム」でポスター発表を行い、当館に関わる活動・研究について外部から高い関心と評価を得ることができた。</p> <p>展示事業は、特別企画展1回と企画展3回を開催した。調査研究事業は、その成果を調査研究報告2019にて報告した。普及啓発事業は、考古学講座、富沢ゼミ、たのしい地底の森教室、地底の森フェスタ2019等を開催したほか、事業団自主財源事業5件も実施し、好評であった。学校連携は利用学習事業を中心に、修学旅行や遠足等の案内対応、中学生の職場体験、高校生の課題探求活動、在仙大学生に協力してもらう館事業も行った。生涯学習では市民文化財研究員やボランティアの育成、地域活性化に貢献するため市民センターや地元商店街・商業施設などでのイベント実施、地域社会教育事業への協力等にも積極的に取り組んだ。</p> <p>今後も地域との連携・協力を強め、SMMAや歴ネットなど仙の博物館や大学等とのつながりを活かし、施設や地域の新たな魅力を現出させる活動を推進していく。また国内にある旧石器時代や埋没林などをメインとする博物館とも連携し、富沢遺跡の価値を発信していく。地域の歴史や文化財に親しむことのできるミュージアムとして新たな試みを続け、仙台市の文化行政の一端を担っていきたい。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>①富沢遺跡の保存管理については、温湿度や塵埃等の日常管理と詳細な観察を基礎とし、大学機関との共同研究の研究成果や専門家の指導を受け、適切な手法による維持管理を実施している。旧石器時代の復元林については、植生調査や検討会の成果を活かしながら、維持管理を行った。なお、空調機器や建物などの老朽化が見られるため、日常の監視を続け、異常が見つかった際には修繕等の最善の対策を施し、遺跡の保存と安全性の向上に努めた。</p> <p>②展示・展覧会のうち、企画展では親しみやすい多彩なテーマを設定し、遺物を通して仙台の原始・古代の歴史を伝えている。市内の遺跡から出土した指定文化財を中心に展示した「センダイ遺跡の記憶」では、文化財の指定・保護の重要性と共に東北地方と仙台の交流の実態を紹介するなど、文化財保護への理解や市民の教養の向上に資するものとなっている。調査研究においても、ミュージアムシアター狩人登場について成果と課題を報告するなど、演劇による効果を他館に伝えるだけでなく、より良いイベントにしようとする姿勢を評価する。</p> <p>③多くのボランティアが活発な活動を行っており、施設に親しみを持ちながら活動内容にやりがいを感じている。展示解説や体験学習の補助を中心とした多岐にわたる活動は来館者から好評を得ており、施設運営に不可欠な存在として魅力向上に貢献しており、施設はこうした活発な市民活動の拠点となり、ボランティアと相互にサポートし合う関係を築いている。</p> <p>④学校連携や多様な学習機会の提供について、教育機関、地元の商店街や施設などと連携を行い、幅広い世代に対し実施している。小中学校の利用学習の申し込みも多く、分館の縄文の森広場と連携して魅力ある展示見学・体験コースを演出しており、郷土の歴史・文化に対する理解を深める活動ができているものとして評価する。</p>	S

四 その他特記事項

(上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課